



SDM 共創宣言

医療はともに考え、創るものへ

病気と向き合うとき、医学的な情報だけでなく、人それぞれに大切にしたいことがあります。家族との時間、仕事や学び、自分らしい暮らし、将来への希望…

だからこそ、一人ひとりが理解しやすく、信頼できる情報が共有されるとともに、患者や家族を含む生活者が日々の暮らしの中での対話を通じて、自らの想いや価値観を安心して伝えられ、それらが尊重されながら医療の意思決定に反映されることが大切です。また意思や選択は、継続的な対話を通じて確認・共有し、必要に応じて見直すことができるものです。

患者やその家族と医療従事者は、それぞれが重要な役割を持つ対等なパートナーとして、より良い道をとともに考え、見つけていくことが欠かせません。

私たちは、生活者、医療従事者、患者団体、福祉関係者、学術機関、行政、企業など、さまざまな立場の人々や組織、地域社会と連携し、SDM（Shared Decision Making：共同・共有意思決定）の実践を広げます。

さらに、一人ひとりがそれぞれの価値観に沿って納得できる選択を行い、後悔の少ない決定ができることを目指します。その積み重ねが、一人ひとりのより良い健康や暮らしと、持続可能な医療や社会につながることを目指します。

その実現に向けて。

私たちは、SDMが必要な場面において、対話を通じた意思決定が当たり前に実践される社会を目指し、次の3つに取り組んでいくことを宣言します。

1. SDMを知り、対話の大切さを広げる

生活者、医療従事者をはじめ、より多くの人々がSDMを理解し、互いの想いを伝え合える機会を広げます。

2. SDMを支える仲間と社会を育む

さまざまなステークホルダーとの連携と協働を通じて、安心して声を上げ、尊重し合いながら意思決定ができる環境づくりを進めます。

3. SDMを実践し、未来につなぐ

生活者、医療従事者の経験や学びを共有し、一人ひとりが納得できる選択を行えるSDMの実践を広げ、社会の仕組みや環境の発展につなげます。

SDM 共創宣言の策定・発出メンバー

MOSHIMO Day ステアリングコミッティ

議長

NPO 法人パンキャンジャパン 理事長 眞島喜幸さん

コアメンバー（以下、ご所属の五十音順）

一般社団法人ピーベック 代表理事 宿野部武志さん

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授 中山健夫先生

特定非営利活動法人 ASrid 理事長 西村由希子さん

アドホックメンバー

大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授 猪阪善隆先生

東京慈恵会医科大学泌尿器科 教授 木村高弘先生

日本調剤柏の葉公園薬局 外来がん治療専門薬剤師 渡辺富美子先生

事務局長

ノバルティス ファーマ株式会社 広報統括本部 本部長 井川敦子

協賛

ノバルティス ファーマ株式会社